

## 次世代モビリティ・エリアマネジメントフォーラム開催

7月21日(火)さいたま新都心・ホテルブリランテ武蔵野において早稲田大学環境総合研究センターと(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構の主催で「次世代モビリティ・エリアマネジメントフォーラム」が開催されました。当日は、200名に及ぶ参加者を集め趣旨や課題のプレゼンテーション・企業の事例発表・パネルディスカッションと次世代のモビリティについて有意義なフォーラムとなりました。

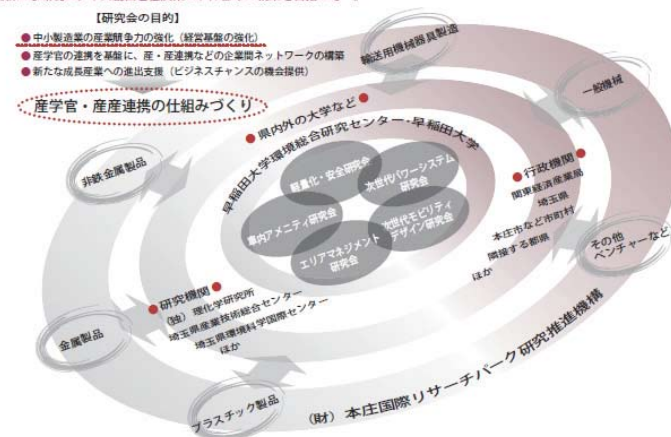
このフォーラムは、「地域の産業、大学などの研究機関、行政の産学官連携によって、次世代自動車関連産業の振興と大気汚染や温室効果ガス削減など自動車にかかわる環境課題の解決を図る」ことを目的に、発足を目標している「次世代モビリティ・エリアマネジメント研究会」のキック・オフ・フォーラムとして位置付けられたイベントです。今回の熱心な質疑応答からも今後の活動に大きな期待が寄せられていることを強く印象付けられるフォーラムでした。

今後は、本年度11月の発足会、5つの分科会や交流会の実施他、年度末の成果報告会へ向けて、さまざまな活動が企画されています。次世代モビリティのビジョンを探り、地域産業の未来を拓くという本会の活動に、自動車産業関係者の方だけではなく一般市民の皆様も是非、期待していただきたいと考えています。



＜フォーラムの様相＞

『次世代モビリティ・エリアマネジメント研究会とは？』  
 〈新たな環境ビジネス創出と低炭素モデル都市の構築を目指して〉



＜次世代モビリティ・エリアマネジメント研究会イメージ図＞

## イベント情報

★本庄早稲田の杜「食の安全シンポジウム」開催！★

日時：11/15(日) 10時～16時半

場所：早大本庄キャンパス内

●基調講演(要TEL申込・先着順)

講師：寺田啓佐氏 (寺田本家23代目当主)

テーマ：「微生物に学ぶ発酵道(仮題)」

他、発表会・試食販売等の盛り沢山の内容です。

★健康アグリ道場参加者募集！★

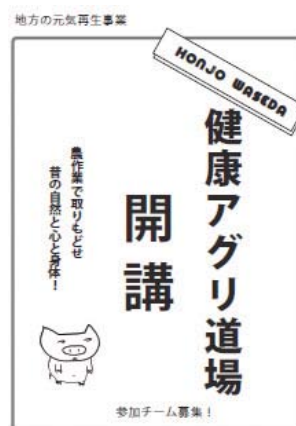
環境保全型の農業体験を通じて

脱メタボを目指しましょう！

詳細は財団HP、若しくはお問い合わせ下さい。



＜食の安全シンポジウム＞



＜健康アグリ道場＞

## 本庄早稲田・リサーチパークニュース 2009.11

### 早大発電動バス 世界一の技術を載せ全国へ向けて発車！

財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構(本庄研究機構)では、環境省の平成21年度地域産学官連携環境先端技術普及モデル策定事業を、早稲田大学や埼玉県環境科学国際センターらと共同で受託いたしました。他に共同で参加するのは昭和飛行機工業株式会社、株式会社早稲田総研イニシアティブの計5法人。本事業は、量産型電動バス車両を開発するとともに、電動バスの普及モデルの構築を行い、電動バスを広く普及させることを目的としています。

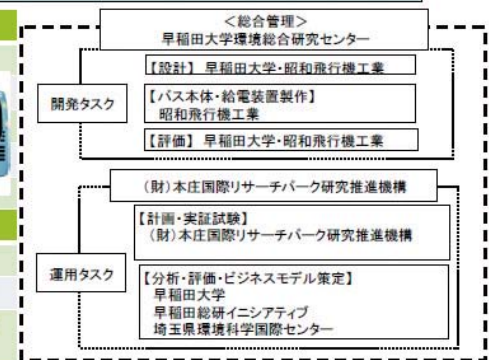
今回開発する電動バスは、短航続距離・高頻度充電をコンセプトとしています。重く高価な充電電池の搭載を必要最小限にすることで、イニシャルコストの大幅な削減を目指す一方、高頻度となる充電作業を安全で簡単に行うために、非接触給電装置の開発も行います。さらに、開発した電動

環境省平成21年度地域産学官連携環境先端技術普及モデル策定事業  
 ～地域普及型の電動マイクロバスシステムの開発と普及モデルの構築～

代表者 早稲田大学環境総合研究センター 大聖泰弘 教授

項目	仕様
日野自動車製ポンチョ(コミュニティバス)を改造	
全長	6,290mm
全幅	2,080mm
全高	3,100mm
定員	20～30名
項目	目標性能
一充電走行距離	45km(実走ベース)
充電方法	非接触急速充電方式等
充電時間	5～8分間(フル充電のためには約60分間必要)

＜性能目標＞



＜組織体制＞

バスは、埼玉県熊谷市及び本庄市で実証試験を行い性能評価を行うとともに、自家用車からの乗り換えに向けて、普及のためのインセンティブを含めた政策等の検討も行います。

【非接触給電装置】離れた場所へワイヤレスで給電する装置。早稲田大学と昭和飛行機工業が開発したものは、伝送効率世界一を誇る。今回は、位置合わせ許容性能やコイル間ギャップ(ワイヤレスで伝送する距離)の向上を図る。

### 本庄地区で電動バス走行実験を実施！

9月7日から30日にかけて、本庄市内で電動バスの運行が行われました。これは本庄研究機構が、早稲田大学らとともに受託した環境省の平成21年度地域産学官連携環境先端技術普及モデル策定事業の一環として実施したもので、早稲田大学の教授や紙屋教授が2005年度に開発した電動バス(WEB2)が、早稲田大学附属本庄高等学院のスクールバスのルートを走行しました。乗客の多くは高等学院の学生でしたが、電動バスだからと乗りきた市民もあり、乗車人数は延べ600人を超えました。「走行音がとても静か。ゆれも普通のバスと比べて全く感じないので、これならバス酔いしない」など、人気は上々でした。



＜本庄駅前で停留中の電動バス＞



## 「ワセダの森子どもサマーセミナーin本庄」開催 ～夏休みワクワク実験教室～

小中学生を対象に夏休みの4日間、早稲田リサーチパークにあるコミュニケーションセンターおよび本庄高等学院において「ワセダの森 子どもサマーセミナーin本庄」が開催されました。参加総数は、小中学生約350名でその

他に保護者など多くの人で賑わいました。高等学院や大学の先生だけでなく、大学院生や高等学院生も優しく子ども達に教えてくれるので、より身近に大学の研究を感じられたり、ピンホールカメラ、ソーラーカー、ホバークラフトづくり

など、ものづくりの楽しさを知るとともに科学に対する興味や関心を持っていただけたのではないかと思います。



～7/25「子ども未来実験教室」～

[主催]

早稲田大学大学院国際情報通院研究科

～8/1「本庄ユニラブ2009」～

[主催]

早稲田大学大学院環境・IT科学-研究科 他

～8/21,22「夏休み親子スーパーサイエンス教室」～

[主催]

早稲田大学本庄高等学院

\*このサマーセミナーは、本庄ケーブルテレビ市民第1チャンネルで9月16日～20日間放送されました。

## 「里山塾 '09in早稲田の森」

今年度も「里山塾」が年7回の予定で開催されています。この「里山塾」は、早稲田大学本庄キャンパスの中にある大久保山を歩き、動植物の観察や里山の恵みを体験したり、歴史をひも解いてみたりと盛り沢山の内容となっ

ており、事前に登録を済ませたメンバー(40名以上)で行っています。今年度は、「里山作業体験」として12月12日(土)の午前9時から午後3時まで(予定)、“植樹(一人一本、植えよう)”と“落葉かき”を企画しています。

今回の企画は、40名を追加募集致します。振るって、ご参加ください！詳しくは、当財団(里山塾事務局)へお問合せください(電話:0495-24-7455)。



5/23

「大久保山散策と里山の生き物たち」

7/11「大久保山と人々の歴史」

レクチャールームⅡでの講義

10/3

「自然の恵み、秋の散策」



## 国際交流～ 美里中学校交流会（2009年8月21日）

ブルーベリーの栽培が盛んな美里町で、早稲田大学大学院国際情報通信研究科の留学生と地元中学生との交流会が開催されました。

ブルーベリー農園での摘み取りや試食、遺跡の森公園コミュニティセンター調理室では美里町食育ボランティアの皆さんにお手伝いいただいたのジャム作りや、ブルーベリー酢を使った稲荷寿司作りを体験しました。

片言の日本語や英語での交流は、留学生や中学生の皆さんにとっても国際理解を深める良い経験になったことでしょう。



＜ブルーベリー狩りをする中学生＞



＜ブルーベリー狩りをする早大留学生＞



＜摘みたてのブルーベリーをジャムに＞



＜ブルーベリー酢を使った稲荷寿司も＞

## 国際交流～上里町うどん作り体験（2009年9月9日）

上里町では毎年町内5つの小学校の児童（3～6年生）30名を対象にした「じゃじゃーん！ わんぱく合宿塾」が行われております。合宿行事の一つであるうどん作りに早稲田大学の留学生が招待され、うどん作りを体験しました。稲荷寿司が好物で自宅でも作っているというスリランカのサンジャさんは、うどん作りは初めてですが、慣れた手つきでうどんを伸ばしていました。ベトナムのディンさんは、「お店で食べるうどんと違い、大変おいしかった。」との感想でした。留学生にとって、上里町の元気な子どもたちとの楽しい思い出づくりになりました。



＜出来上がったうどんを試食する留学生＞



## いよいよ「川淵三郎塾」開校！

9月12日「本庄流市民一人1スポーツ」の構想のもと、「川淵三郎塾」が本庄総合公園シルクドームで開校となり、当日会場には約450名の市民みなさんが参加されました。

当日は開会セレモニーののち、「生涯スポーツの取り組み」事例紹介として本庄市バスケットボール協会のご協力で、ブルースターズと社会人チームによるスポーツ少年団への指導と混合による練習試合が行われました。子どもたちは憧れの選手たちからの指導や試合が体験できて非常に喜んでいました。

その後、川淵氏により「夢があるから強くなる」と題して基調講演が行われました。当日の講演は、スポーツに関わり方として「みる」「する」「きめる」「ささえる」という面から生涯スポーツについて語られ、また、川淵三郎塾開校の新聞記事を読んだ東京在住の本庄市出身者からの手紙の紹介や新聞記事で紹介された大縄跳び競技に対しての子どもたちの思いなどを紹介されました。川淵氏の塾へ対する熱い思いが強く伝わってきました。



＜吉田信解本庄市長と川淵三郎氏＞

今後、川淵三郎塾では、市民一人1スポーツの理念のもと、「行きたくなる場所」「行きたくなる指導者」「行きたくなる仲間」という環境やその仕組みづくりなどを進めるための各種行事やセミナーを開催していく予定です。

### ★今後予定の行事★

11月28日・29日  
第1回川淵三郎カップ大会

## 経営者向け研修「本庄早稲田塾」& 中堅社員向け研修「ミドルマネージャー研修」実施中！



＜本庄早稲田塾＞

今年度、当財団では、企業人材育成事業として、経営者向けの研修と、中堅社員向けの研修を実施しております。

経営者向けの研修である「本庄早稲田塾」は、今年5月に会員募集を行いました。6月から毎月、早稲田大学教員による商品開発、経営と現場力、生活習慣病、メンタルヘルスなどの多岐にわたる実践的なテーマでご講義頂いております。地域の様々な分野の企業

の皆様にお集まり頂き、毎回の講義後の交流会では、先生を交え白熱した意見交換が行われております。一方、中堅社員向けの研修として「ミドルマネージャー研修」を開催しております。6月24日(水)には、第1回の開催となる「中堅社員実践研修」では、コミュニケーション能力向上と仕事に対する創意工夫を自発的に行うことを目的とし、受講者はグループワーキングにより、これからの会社を担う中堅社員の心意気を学ぶこと



＜ミドルマネージャー研修＞

が出来ました。8月25日(火)には第2回目となる「プロジェクトマネジメント研修」を開催しました。研修内容はプロジェクトマネジメントの知識体系であるPMBOKの入門研修として、具体的な事例に沿ってプロジェクトを遂行する際に必要な知識を学びました。今後も他テーマで開催が予定されておりますので、次代を担う社員の皆様には是非ご参加頂きたいと考えております。

## 本庄早稲田駅発～古代豚弁当 販売中！

本庄地域の食材を使った駅弁「本庄早稲田駅発～古代豚弁当」(税込み900円)の販売が8月1日から本庄早稲田駅や東京駅などで始まりました。この駅弁開発にあたっては、早稲田リサーチパークにおいてまちづくりや基盤整備を推進している「本庄地方拠点都市地域整備推進協議会」が早稲田大学、JR東日本高崎支社、財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構及び周辺自治体や関係機関による駅弁プロジェクトを組織し、約1年をかけて共同開発したものです。

この駅弁の特徴ですが、美里町の「白石農場」で育てられた「古代豚」や、神川町、美里町の特産ブルーベリーを使った水まんじゅう、上里町、本庄市のキュウリを使った中沢食品のしば漬け、米は埼玉県産の「彩のかがやき」を使うなど地場産食材にこだわったメニューとなっております。

本庄地域では、上越新幹線本庄早稲田駅の売店にてお求め下さい。



古代豚は、美里町「白石農場 代表：白石光江」の近代的な施設で育てられています。耳が立っているのが特徴です。

## 健康アグリ道場 元気に始動！

10月10日(土)、晴天の下「健康アグリ道場」第1回目の活動が行われました。

「健康アグリ道場」は、今年度の内閣府「地方の元気再生事業」の採択を受け実施するもので、当財団とNPO法人健康早稲田の杜、NPO法人本庄早稲田環境市民ネットワークの3者により設立された「地域環境保全・脱メタボ推進協議会」が主催する事業です。「健康アグリ道場」は農業体験を通じて市民の健康増進を図り、地域の生きがい、健康社会の創出を図ることを目的とする事業で、2つのNPO団体により提唱される「アグリエクササイズ」を約半年間にわたり実施しながら、アクティメーターという計測器により日々の運動データを蓄積、分析し体脂肪や体重、血圧等に与える影響を検証するものです。

第1回目は、参加者25名、5チームに分かれ午前中に稲刈り、ほだかけを実施。午後はサツマイモ掘りを行い、それぞれのアクティビティの運動強度を計測しました。参加者からは「これをきっかけに脱メタボを成し遂げ、半年後にはもう一度輝いていた頃の自分の体形を取り戻したい」との声が上がる等、大きな期待が寄せられました。



＜準備体操・測定＞



＜ほだかけの様子＞



＜サツマイモ掘り＞